実験手順書 2024.7.16v

これ(実験手順書)は，被験者に渡すのではなく，小島君がゆっくり読み上げて説明または実行する原稿です．

**「質問紙」**の１行目は小島君が記入して，参加者に渡してください．

1. **身長に合わせて，座席の高さを適合させます．**

目安：全員が同じ程度の中腰角度になるように．

1. **装置による刺激の特性の理解のための試乗**

感覚提示装置が提示する刺激を知って頂くために，装置に搭乗し20歩程度体験させます．この場合，未経験者には，最も大きい運動量の刺激がいいです．希望があれば延長体験させます．

1. **山岳登攀の視覚イメージの理解**

この装置は，山岳登攀の感覚を生成することが目的です．その際に用いる予定の映像はこのような実際の山岳登攀の映像です．30秒くらい北岳ビデオを見てもらいます．

1. **山岳登攀を模擬した階段登階とその際のストックの操作を練習し，ストックの感覚を体感してもらう**
   1. 両足の横に，ストックをつく．
   2. 左足を１段目に乗せます．その次にほぼ同時（0.5秒後までに）に左ストックを左足の横に突きます．
   3. 体重を左足に移動して，左手ストックにも力を入れて，体を持ち上げます．
   4. 右足を２段目に置きます．次に，ほぼ同時に右ストックを右足の右につきます．
   5. 体重を右足に移動して，右手ストックにも力を入れて体を持ち上げます．
   6. （イ）の動作（３段目）と同じように，繰り返します．

十分に体験して頂きます．**１階分の上昇を２回くらい**．（納得するまで）  
（注：降りるときはストックをつかないこと）

**体験者への説明）ストックをつくのは，体重を持ち上げる際に，足だけでなく，「手でも，体重を持ちあげる」ためと，体重移動時に，片足立ちになっても，そちら側に倒れないようにすることが目的です．山の急坂を想像して，ストックでも体を持ち上げるようにやってください．**

1. **平地歩行でストックの感覚を体感してもらう**

階段と同様の使い方でストックの感覚を体感してもらう．

1. **システムによる感覚提示実験**

感覚提示装置による**ストックの感覚**に注意を向けて，４種類の提示を体験していただきます．  
各10～20歩．（順序はランダムに各参加者に割り当て）

体験時は**目を閉じて**頂きます．

各刺激種類の終了ごとに，質問紙に記入していただきます．

1. **質問紙への回答**

**質問紙**で，ストックの感覚が，平地歩行か，先ほどの階段を上がった感覚か，またはその間のどこかをスケールの該当する位置に縦線を記入して頂きます．

平地歩行時のストックの感覚　　　　　　　先ほどの階段を上った時のストックの感覚

記述欄には必ずご意見を記入して頂きます．

記述欄（必須）

良い点：

悪い点：

その他：

記述欄（必須）

1. **質問紙の最後の項目への回答**

最後の質問として，階段を上る全身の上昇感覚を評価していただきます．

最も，階段に近い提示について評価してください．必要ならその提示を繰り返し体験できます．

その際の全身の上昇感覚を書いてください．

**平地歩行時の感覚　　　　　　　　　　　　　　　　　階段登階時の上昇感覚**

記述欄（必須）

何回目の提示が階段に近かったか？(再提示可能)：

**上昇感覚提示について**

良い点：

悪い点：

その他：